

## 論文審査の結果の要旨及び担当者

|   |             |      |      |
|---|-------------|------|------|
| 報告番号  | 博（医）甲第1292号 | 氏名   | 河津多代 |
| 論文審査担当者   |             | 主査教授 | 田口 尚 |
|   |             | 副査教授 | 大園恵幸 |
|   |             | 副査教授 | 酒井英樹 |
| 論文審査の結果の要旨  |             |      |      |
| <p>1 研究目的の評価</p> <p>本研究は、メサンギウム増殖性糸球体腎炎におけるメサンギウム基質の増加と修復機序を明らかにするために、細胞外基質の産生因子と分解因子の発現をハブ毒誘発腎炎を用いて検討したものであり、目的は十分に妥当である。</p>  |             |      |      |
| <p>2 研究手法に関する評価</p> <p>Sprague-Dawley ラットにハブ毒投与による可逆性糸球体腎炎を作成し、細胞外基質産生系として Heat shock protein(HSP)47 と TGF-<math>\beta</math> を、分解系として MMP-3 と Ets-1 の糸球体における発現の経時的変化を免疫組織化学的に解析したもので、研究手法も妥当である。</p>                 |             |      |      |
| <p>3 解析・考察の評価</p> <p>上記手法で解析した結果、本モデルにおいては腎炎発症早期から HSP47 と TGF-<math>\beta</math> の発現が増強することにより基質が増加し、その後、転写調節因子の Ets-1 を介した MMP-3 の発現が基質の分解をもたらすことが示唆された。メサンギウム増殖性腎炎における硬化抑制への治療戦略のターゲットを探る上で、示唆に富む所見として高く評価される。</p> |             |      |      |
| <p>以上のように本論文は糸球体腎炎の研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>   |             |      |      |